

文部科学省 平成24年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」

第16回 丸山眞男文庫記念講演会

丸山眞男と「アメリカ問題」

講師 古矢 旬氏

(北海商科大学教授 北海道大学名誉教授)

日程：2015年11月27日(金)15:00～16:30

会場：東京女子大学構内（教室は当日正門前に掲示）

第2部 丸山眞男文庫の現在

—バーチャル書庫と草稿類デジタルアーカイブの紹介—

※講演会終了後の30分程度を予定しております。

申込不要・入場無料

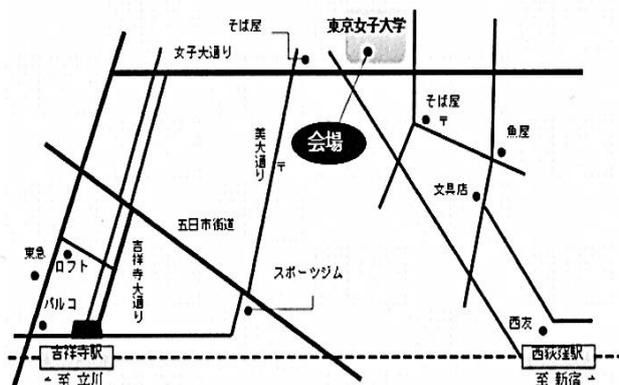
【問合せ先】東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター

〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1 Tel: 03-5382-6817 Fax: 03-5382-6120

E-mail: marubun@lab.twcu.ac.jp

HP: <http://www.twcu.ac.jp/facilities/maruyama>

- J R 西荻窪駅北口より徒歩約12分
- 西荻窪駅北口より吉祥寺駅行きバス
「東京女子大前」下車
- J R・京王井の頭線吉祥寺駅北口より
西荻窪駅行きバス「東京女子大前」下車



講演の概要

丸山眞男とアメリカとの関わりについては、すでにこれまで入江昭、清水靖久、油井大三郎各氏をはじめとする方々が、当センターの企画にかかる講演会や研究会等において、報告をされている。これらの報告以外にも、丸山の直接、間接の、また個人的、学術的な「アメリカ経験」に多少とも言及する丸山眞男研究は少なくない。そのことは、丸山の学究生活が、アメリカ合衆国を最大の一方当事国とする太平洋戦争と冷戦という国際政治の大枠の内で展開されてきたことを思うならば当然といえるかもしれない。政治学者としての、また知識人としての丸山が、主たる学究対象、批判対象としてきた日本政治は、その間（そして今日もなお）まさに合衆国によって翻弄されてきたからである。

しかし他方で、このアメリカの影の濃さと大きさに比するとき、これまでの丸山眞男研究において論じられてきた丸山の「アメリカ問題」認識は、やや断片的、あるいはエピソード的な印象を免れない。それは、あるいは「アメリカは分からない」「アメリカは不可解である」という丸山自身のアメリカに対する学術的、文化的な違和感に由来するのかもしれない。この点も含め、丸山は、その世界認識、歴史認識において、「アメリカ」をどのような枠組みの内にとらえ、その存在意義を自らの政治思想史研究の中にいかに位置づけていったのかを試論的に検討してみたい。

講師プロフィール



1947年、東京都生まれ。現在、北海商科大学商学部教授、北海道大学名誉教授。専攻はアメリカ政治外交史。著書に、『アメリカニズム——「普遍国家」のナショナリズム』（東京大学出版会、2002年）、『アメリカ 過去と現在の間』（岩波新書、2004年）、『ブッシュからオバマへ——アメリカ変革のゆくえ』（岩波書店、2009年）、『アメリカ政治外交史 第二版』（斎藤眞との共著、東京大学出版会、2012年）などがある。近年の業績として、丸山眞男『超国家主義の論理と心理 他八篇』（岩波文庫、2015年）の編著がある。

第2部 丸山眞男文庫の現在

東京女子大学は、2012年度より、丸山眞男文庫の資料にもとづいた研究プロジェクト「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」を開始しました（文部科学省平成24年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」採択プロジェクト）。このプロジェクトは5年間にわたって2つのテーマを軸として研究を進めています。

この第2部では、テーマの1つ「丸山眞男文庫所蔵資料の調査研究とデジタルアーカイブ構築」の成果にあたる、バーチャル書庫（2015年3月公開）と草稿類デジタルアーカイブ（同年6月公開）について当文庫スタッフをご紹介します（HP：<http://www.twcu.ac.jp/facilities/maruyama/project/>）。

丸山眞男文庫とは

日本政治思想史の研究を中心に、政治思想家として世界に向けて発信し続けた丸山眞男は、戦後の日本を代表する知識人でありましたが、その思索の跡を伝える約2万冊の蔵書と約3万頁の草稿類が1998年に東京女子大学に寄贈されました。東京女子大学は、日本における丸山眞男研究の拠点となり、貴重な資料がひろく活用されることを願って丸山眞男文庫を設立し、調査と整理を進めるとともに講演会、公開研究会、公開授業等を開催しています。